

# 職業奉仕月間によせて—素朴な疑問



東京東 佐藤 千壽

地球上から貧乏と飢餓を追放しよう、地球全体が吹き飛んでしまうような核戦争の防止に立ち上がろう——その高邁な理念に対しては、誰も異論ない、私とて同感だ。しかし、しかし……と私は考える。今ロータリーはその根幹である職業奉仕という一つの部門を深く追い求めてゆくと、そこに人類の命運を左右する重大な問題を発見する。それは「人間の尊厳」に直接ふれる問題であって、これこそ今ロータリーが真剣に取り組まねばならぬ緊急課題ではなからうか。高邁な理念は理念としても、この方がより現実的であり、またこの現実の課題こそ、職業人に与えられた命題ではないだろうか。しかもそれは核の脅威に劣らぬ重大問題なのだが、まだロータリーとしては、環境問題以外誰もこれを公式に取り上げていない。何故だろうか？ 高度の政治的問題には極めてうとい、私のような幼稚な町人の疑問に、どなたか明快にお答え頂けないだろうか。

以下、実業人、専門職業人が当面する課題について列記する。

- (1) 北の先進工業国によるあくなき生産拡大競争——その結果もたらされる南からの資源収奪と地球全体に広がりつつある砂漠化の進行
- (2) 生態系の循環過程からはみ出した新しい物質の創造と、その無制限浪費による環境破壊——大地から得たものを大地へ、大気から得たものを大気へ、水から得たものを水へ……それが自然ではないか。合成物質ばかりか、地中から掘り出した燃料を大量に燃し

て、地球全体を排気ガスで封じ込めている。

- (3) 技術が人間を離れて独り歩きする恐ろしさ——最初技術は人間のニーズによって開発された。ところが技術というものは、そのニーズに応え終わると、技術が優先して逆に人間のニーズを開発しようとする。それもいぎびまると、人間それ自身を食い荒らそうとする。専門家は、「みんなのためになるか」などとは考えない。技術屋は技術のために技術を、学者は学問のために学問を……である。学問も芸術も、「無用の用」としての効用が無論大事だ。しかしそれが人間破壊につながってはなるまい。
- (4) マイクロ・エレクトロニクス、ニューメディアの急速異常な進展による人間性の喪失——この新産業革命は計り知れないほどの便益をもたらした。しかし人々は今その明るい便益の面だけに酔い痴れて、人間が身動きできない管理機構に組み込まれる危険には気づいていない。やがて中央のボタン操作一つですべての個人の過去のデータはもとより、ただ今現在の位置、行動まで瞬時に写し出されることも可能になろう。自由も尊厳もない。
- (5) 技術のために人間が売買される——常に先端技術を追いかけて競争する世界では、産業スパイ、人材スカウトが商売として成り立つようになる。しかしそれは「みんなに公平か」、「みんなのためになるか」、そして「好意と友情を深め」、住みよい社会を建設するのに役立つだろうか。「人材」という言葉に

## 県民体操から始まる例会

宇部RC



宇部RCの例会は点鐘前の山口県民体操から始まる。幹事さんの呼びかけで出席者全員が上着を脱ぎテーブルの横で体操の姿勢をとる。テーブルから前奏の音楽が流れ、体の横まげ、首まわし、肩まわし、背のび等の準備体操から手足の運動、肩たたき、体の前まげ後たおし等の運動が音楽のリズムによって展開される。

所要時間は2～3分、動作は簡単だから、ビジターの方でもすぐついていける。昼前の仕事を慌だしくおいて例会に駆けつける者にはまたとない気分転換であり、平素運動から遠ざかっている者にはまことに心地よいものである。

当クラブの例会では古くからロータリーソングのあと、隣席の出席者と好意と友情の握手を交わす習慣があるが、一昨年からはまったこの山口県民体操もようやく定着し、よい結果を得ている。

示されるように、人間を文字通り「材料」なみにあつかって、平然と売買できるようになったら、そんな人間が核兵器発射の引き金を引くの何のためらいがあろう。

- (6) 生命工学の進展はやがて核の脅威以上のものになるだろう——核の開発はそれが新しい燃料資源として生活に直結している限り「みんなのためになる」。しかし核はやがて核のためにより高度の核開発をうながし、遂に他国の核に対抗するため、さらに他方もより多くの核を蓄積するという破目に立ち至ったのである。バイオテクノロジーについても同様のことがいえる。それが食糧増産、品種改良、新薬開発に利用されている限り、「みんなのためになる」だろう。しかし今やこの分野の技術進展は、とんでもない人間抹殺の危険な門にさしかかっているのだ。バイオテクノロジーは神にとって代ろうとしている。生命が工学の対象になったのだ。この事態を皆さんは何と考えられるか。

先日、羊の受精卵を顕微鏡下で四つに分割し、全く同じ四頭の羊を造ることに成功した、というニュースを見て驚いた。また家畜の精液が売買され、これによって人工授精をするというのは、昔からある方法だが、今やホルモン剤を使って過剰排卵させ、この卵子で優秀な受精卵を造る。これが流過程に乗

っていて、あとは完全な借腹で事足りる。こういう技術が確立すれば、同じ哺乳類である人間にこれを応用することは簡単であろう。試験管ベビーは漸くその緒についたところで、その倫理性が問題になっているが、先程も述べたように、技術はやがて人間を離れて独り歩きする。人工子宮も開発されるだろう。こういう体外授精は、子の無い夫婦にとって福音だ、というのがこれを許している論拠だが、子供が欲しいという二人の願望をこういう方法で満たしてやるのが、果たして人類全体、「みんなのため」になることなのかどうか。私にはそこどころが大いなる疑問なのだ。

さらに技術はもっと恐ろしいところまで進んでいる。遺伝子操作によって遺伝性の難病治療が可能だということである。ところが「治療」と「改造」の間に境界はない。これによって皮膚の色も髪の色も、思い通り変えられるし、遂には知能の改造も可能だろうと予測されている。これは臓器移植の技術と共に手を携えて、人間改造へまで突き進んでゆく可能性をはらんでいる。ここまで来れば、人間は一箇の工場生産物に等しくなる。

さて、以上の諸点はいずれも実業家、専門職業人が関与する問題だが、これが職業奉仕の検討課題でなくて何であろう。かつてロータリー

のいう職業奉仕は、主として不公正取引を問題にしていたが、現在の職業奉仕は人類の命運にかかわる極めて次元の高い倫理に直面している。しかも、飢餓や核の問題は既に政治とからみ合った大難問になってしまっているのに、こちらの方は、今その門にさしかかったばかりなのだ。事が進んでしまってから騒いでもそれは遅い。ロータリーとして、どちらが実行可能な優先課題と考えられるのだろうか。

生命工学によって人間が簡単に造れるようになれば、核の脅威など考える必要がない。優秀な(?)受精卵子をたくさん抱えこんでシェルターの中にかくれ、他の人間を皆殺しにする——地上の汚染が抜けるまでシェルターの中で、卵子の分割育成に精出す……そんな図式だって考えられぬことはない。そういう人達に、人類愛や地球運命協同体を説いて回っても無意味だろう。まあそんな世の中になるくらいなら、その前にいっそのこと一挙に地球ごと、核で雲散霧消してしまった方が、よっぽど「みんなのため」にしあわせではなからうか。

神様は人間を造ったが、人間はもう神様の手におえなくなった。今度は人間が技術を造って、その技術が人間の手におえなくなる番である。それは昔、天が落ちてくるのを心配したと

いう杞人の憂と同じ患者の取り越し苦労だろうか。愚直な私はそれでも考える——すべてのロータリアンが、「みんなのため」“all concerned”ということを地球的規模まで拡大して考えながら、それぞれの職業に真剣に従事する……そういう職業奉仕を押し進めるなら、外のこと何もしなくとも、ロータリーは人類史上偉大な足跡を残すことになるだろう。金をばらまくことは、かっこいいし、また一番やり易い。しかし事の本質に迫る問題はどちらなのだろうか。そんなことを言っているようじゃお前はまだ駄目だ……と叱られるかも知れぬが、それなら駄目な人間にもわかるよう教えて頂きたい。

国際ロータリーに、環境問題に関する委員会があったが、あれはその後どうなったのだろうか。どんな活動をしたのか、その成果についても寡聞にして知らない。先に挙げた愚鈍な人間の心配事それぞれについて、国際大会で職業別協議会でもやってもらったらいいと思うがいかがだろうか。そして、この高度に技術の進んだ時代に即応するような、実業、専門職業人それぞれの行動指針を示すべきではないか。ロータリーが職業人の集まりだというなら、それぞれロータリーの責務だと思うが、そんなことを考える私の頭は固すぎて駄目なのかしら。(バスタガバナー)

## ロータリークイズ・答

### 1 (答)

できません。R I 細則第13条第3節(地区大会)は地区と場所について“毎年、地区ガバナーと地区内過半数クラブの会長の合意によって定められる時および場所において、地区内ロータリアンの大会を開催するものとする。ただし、開催の時期は地区協議会、国際協議会、規定審議会または国際大会の時期と同じであってはならない。”と定めている。

### 2 (答)

地区大会の期間は、2日より少なくならないようにしなくてはなりません。〈手続要覧42頁〉

1日だけの大会では、ロータリーのプログラムを満足に遂行することはできないというのが理事会の意向であります。(理 47-48:48-49)なお、1983年11月の理事会は例会出席クレ

バスタガバナー 森滋郎 平島健次郎著「ROTARY Q&A」より  
ジットに関する方針を次のように発表しています。「理事会は、ロータリークラブ定款第8条第5節(a)の規定のもとにロータリアンがR Iの会合(たとえば地区大会)に出席し、その会期が1日以上にわたり、その期日が出席補填期間についての規定にあてはまる場合は2回分のメイクアップを通告できると解釈している」

### 3 (答)

現在またはR I元役員であることは会長代理の資格とはなりません。

〈1981年手続要覧 87頁会長代理〉

### 4 (答)

そうです。会長代理は自分の所属する地区以外の地区の大会へ派遣されるべきことになっています。

〈1981年手続要覧 87頁〉